

氷見市海浜植物園のあり方に関する 基本方針



2019年3月22日

氷見市

目次

1. はじめに	P1
(1) 基本方針策定の背景と目的	P1
(2) 基本方針の位置づけ、計画期間	P2
2. 施設の概況	P3
(1) 沿革	P3
(2) 設置目的等	P3
(3) 施設の概要	P3
3. 現状と課題	P5
(1) 運営状況	P5
(2) 課題	P11
4. 有識者及び庁内検討委員会における意見について	P13
5. 進むべき方向性について	P17
6. あり方に関する基本方針	P20
7. リニューアルに向けた今後の進め方	P21
8. 資料編	P22

1. はじめに

(1) 基本方針策定の背景と目的

戦後の高度経済成長期は、急激な国民経済の発展に伴う生活環境の悪化や公害、環境問題に対する関心を高める契機となりました。これを受け、富山県においては緑化活動の推進、そして「日本一の花と緑の県」を目指した取組みが始まりましたが、その流れを受け、平成 8 年に氷見市海浜植物園が設立されました。開園当初は 13 万人もの入園者がありましたが、時代の変遷とともに入園者数は激減し、現在では 4 万 5 千人前後の入園者数で推移しています。

人口減少は今後もさらに進むことが確実であり、劇的な来園者数の増加は望めません。さらには、開園から 20 年が経過し、施設の老朽化に伴う修繕費の増加が懸念されていることから、公共施設マネジメントの改善、そして地方創生に本施設がどのように貢献できるのか、時代にあった公共施設としての「あり方」について検討することが、今まさに求められています。

こうした中、今年度、氷見市は庁内検討委員会及び有識者による検討委員会を開催し、本公共施設の「あり方」についての基本方針を策定いたします。本基本方針を踏まえ、来年度以降、より詳細な経営改善に向けた取組みや、管理運営体制の見直しを図ってまいります。

(2) 基本方針の位置づけ、計画期間

「氷見市公共施設再編計画」において示された「維持・長寿命化対象施設」という方向性を踏まえつつ、本公共施設の「あり方」について検討します。

また、計画期間については「個別施設計画」に合わせて、2018年度（平成30年度）から2027年度までの10年間とし、進捗状況のフォローアップ結果等を踏まえ、5年後に計画更新を行うものとしします。



2. 施設の概況

(1) 沿革

平成 4年 ～7年	「富山県植物公園構想」に基づく海浜植物専門植物園として氷見市が整備
平成 8年	竣工、開館 財団法人氷見市海とみどりの協会が管理運営
平成 9年	入園者 20 万人を達成
平成 11年	うるおい環境とやま賞 受賞
平成 19年	昆虫標本の廃止 入園料の引き下げ (大人:600 円⇒500 円、小中:300 円⇒100 円)
平成 21年	イベント期間を除いた入園料の無料化 専用使用料の導入
平成 24年	一般財団法人花と緑のまちづくり協会が管理運営
平成 25年	入園者 100 万人を達成
平成 26年	氷見市海浜植物園創造的活性化事業にて民間企業に経営コンサルトを委託

(2) 設置目的等

ア) 設置目的

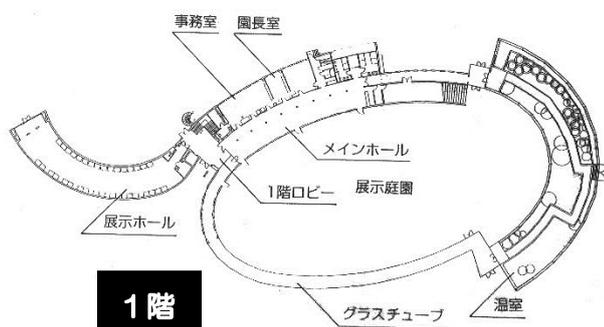
市民に海浜植物を中心とする植物に関する多様な学習と憩いの場を提供し、もって市民の教育及び文化の向上並びに福祉の増進に寄与するために設置。

イ) 事業内容

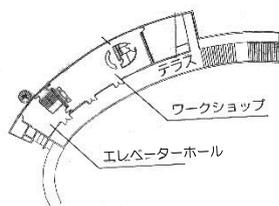
- ・海浜植物を中心とする植物及びこれに関する資料の収集、保存及び展示
- ・海浜植物を中心とする植物に関する専門的な調査研究
- ・海浜植物を中心とする植物に関する講演会、講習会、研究会等の開催
- ・その他設置目的を達成するために必要な事業

(3) 施設の概要

氷見市海浜植物園は、日本各地の海浜植物を中心に植栽展示する植物園です。「富山県植物公園構想」の専門植物園の一つとして、氷見市が整備しました。万葉集にも詠まれた白砂青松の地である「松田江の長浜」にあり、松田江浜の海浜植物の保護育成にも努めています。現時点で「海浜植物園」を冠する施設としては日本で唯一の施設となっています。



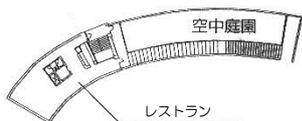
1階



2階



3階



4階

所在地	富山県氷見市柳田 3583 番地
開園日	平成 8 年 5 月 14 日
総事業費	約 22 億円
設計者	長谷川 逸子
事業年度	平成 4～7 年度
施設面積	約 6. 4 ヘクタール
建物面積	本館 1, 105. 0m ² 温室 753. 5m ² 展示ホール 265. 4m ² 管理温室 294. 4m ² 公衆便所 39. 8m ² その他 170. 9m ² 合計 2629. 0m ²
本館施設	1 階：ロビー、メインホール、 温室、グラスチューブ、 事務室、図書コーナー、 展示庭園 等 2 階：ワークショップ、エレベ ーターホール、テラス 3 階：厨房 4 階：レストラン、空中庭園
駐車台数	大型バス 10 台 普通車 116 台 軽自動車 24 台 合計 150 台

- 展示庭園・・・虻が島、松田江浜の植物のほか、日本各地の海浜植物を展示。
- 温室・・・熱帯、亜熱帯の植物を多く展示。
- グラスチューブ・・・主につる性植物を展示。
- ふれあい園花壇・・・季節の花が花壇を彩る。
- 海浜散策園・・・松田江浜の海浜植物を保護・育成している。

3. 現状と課題

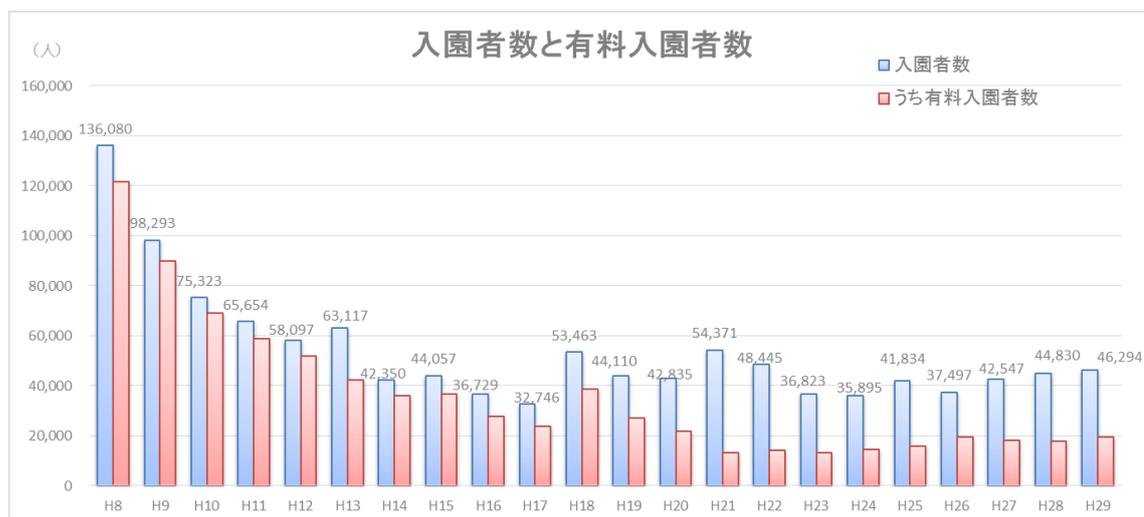
(1) 運営状況

ア) 入園者数について

入園者数は開園当初の平成8年の13万人をピークに、平成17年には3万2千人と、ピーク時の3分の1にまで減少しました。平成18年には夏の親子ふれあいまつり（カブトムシ展）を開始したことにより、一時的に5万3千人に増加したものの、翌年から再び減少傾向となり、平成20年には4万2千人となります。

平成21年には、イベント期間中を除く入園無料化に踏み切ったことで、有料入園者数が大きく減少しました。市民緑花活動の拠点として、多くの市民に施設を利用してもらうことを優先としたもので、この結果、入園者数は再び5万4千人にまで回復しました。

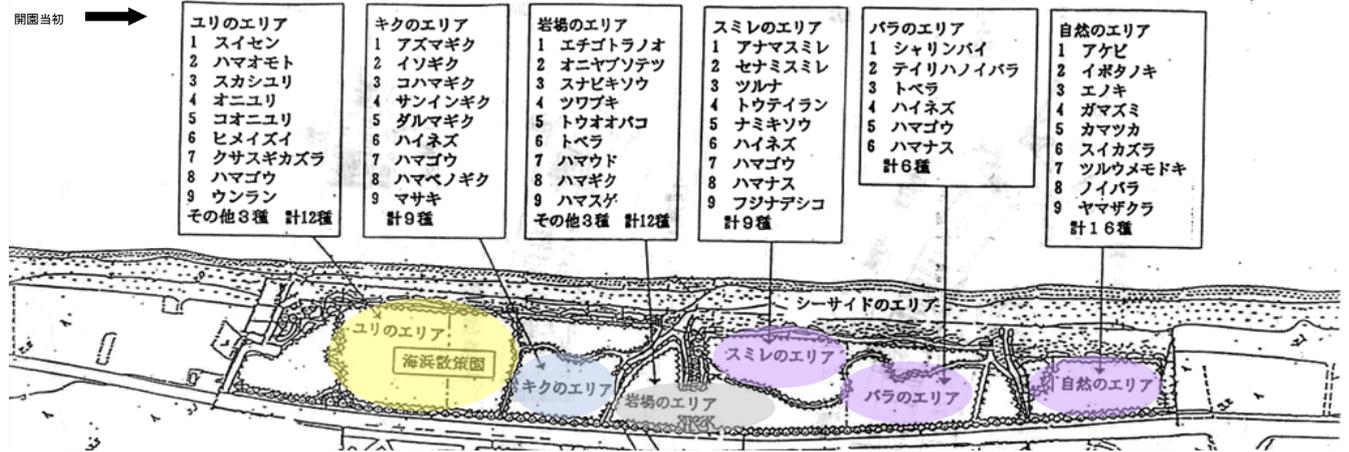
その後、再び入園者数は減少傾向となったものの、平成27年度から開始した「木育キャラバン」等の子育て世代向けイベントを中心に入園者数が増加し、近年では4万5千人前後で、微増傾向となっています。



イ) 植栽について

開園当初と現在の植栽を比較したところ、海浜散策園においては、当初植えた植栽が、ほとんど消滅していることが分かりました。

海浜散策園植栽図（開園当初との比較）



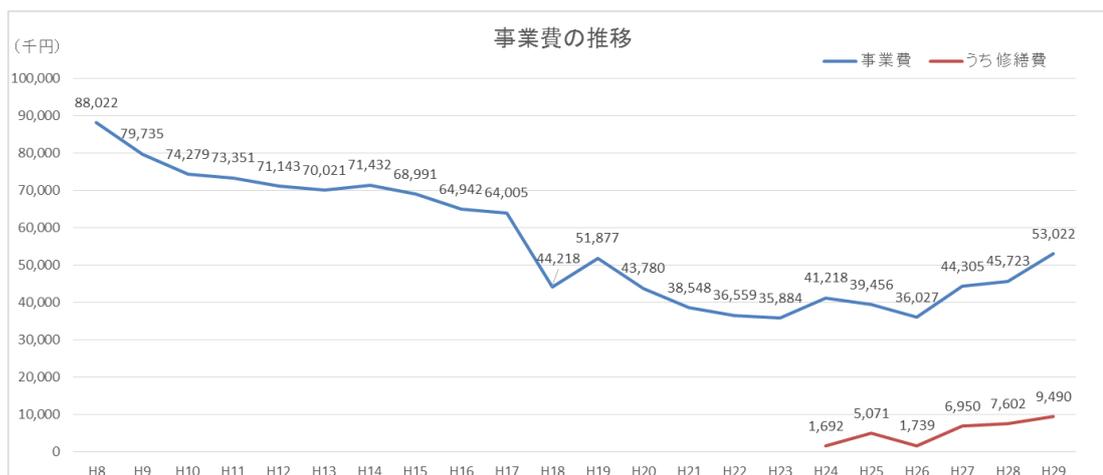
エリア名	ユリ		キク		岩場		スミレ・バラ・自然	
	シャリンバイ	ハマゴウ	ハマギク	ハマゴウ	ハマゴウ	ハマゴウ	アキグミ	トベラ
現存する植物	20%立枯れ	30%枯れ		少々		まばら	14m	
	4m枯れ	100%立枯れ (道沿い)	5m枯れ	50~70%立枯れ (道沿い)	60%立枯れ (道沿い)	60%立枯れ (道沿い)	14m	14m
	80%枯れ			5m2有り		30%		
			5m2有り					

建設当時からの自然環境の変化から、波が海岸保安林にまで入ってくる機会が近年増えており、外から持ち込んだ植物にとって根付くことが難しい環境となっています。また、現状でも園路周辺を中心に草刈りを行っていますが、敷地面積が広く、維持管理していくためのマンパワーが足りないことも原因だと考えられます。

これを当初の状態に戻す場合、植栽だけで少なくとも約49百万円の費用がかかり、また園路の陥没箇所などを埋めて舗装するといった一時的な最低限の対策で約4百万円の修繕費がかかることが分かりました。次に、修繕費見込も含めた、事業費についてみてまいります。

ウ) 事業費について

事業費については、平成 18 年に市直営から指定管理者制度に切り替えたことで、約 2 千万円の大幅な削減となりました。以降も経費の削減に努めてきましたが、平成 27 年から施設の老朽化に伴う修繕費が増加傾向にあることから、現在では、指定管理者制度導入時の平成 18 年よりも高い水準となっています。



施設修繕にかかる経費（見込）については、以下のとおりです。

氷見市海浜植物園 施設修繕にかかる経費（見込）

(単位: 千円)

	①散策園の復元(開園当初)	②温室維持のための修繕 (いつ壊れてもおかしくない)	③最低限必要な設備 (現時点で分かっているもの)
修繕箇所	・補植工事 48,902千円	・環境制御システム(管理PC等) 16,549千円	・消防設備機器更新 11,343千円
	・園路修繕 4,104千円	・温水暖房回収設備工事 1,950千円	・エアコン (展示ホール2機、メインホール、ミーティングルーム、ワークショップ) 29,001千円
		・サッシ自動開閉装置 55,000千円	・出入口庇改修 1,534千円
		・キャットウォーク設置 25,000千円	・トイレ浄化槽 1,289千円
		・足場代ほか 15,400千円	・エレベーター修繕 525千円
合計額	53,006千円	113,899千円	43,692千円
その他経費	・波による浸食対策 ・人員5人増による人件費 20,000千円/年	・維持管理費(灯油代等) 7,000千円/年	・配管、電気系統の更新

①海浜散策園の復元

海浜散策園を開園当初の状態に復元した場合は、補植及び一時的な園路修繕に 53 百万円がかかる見込みです。ただし、これはあくまで一時的な復旧費であり、根本的な問題として、浸食が進む海岸の対策等を検討しなければ、また波が進入して数年で再び植栽が失われる可能性が高いと思わ

れます。また、散策園を維持管理していくために、人を現状よりも5人程度増員する必要があり、少なくとも年間20百万円程指定管理料を増やす必要があると考えられます。

②温室維持のための修繕

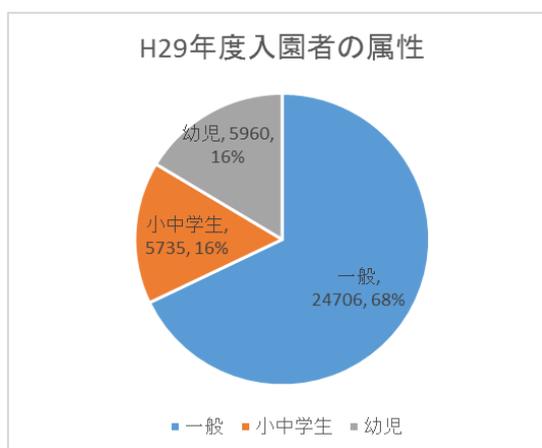
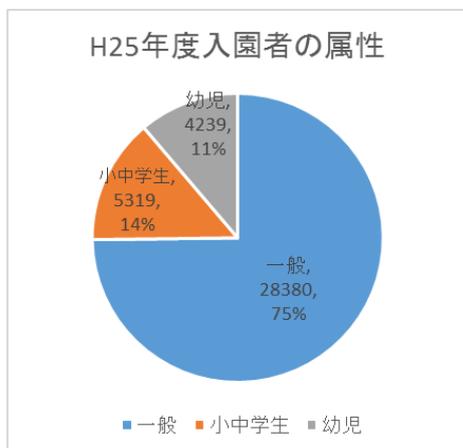
温室部分については老朽化が進んでおり、温度管理の制御システムの更新などに113百万円がかかる見込みです。現在は、温度管理のために、植物管理の職員が足場のない鉄骨によじ登って窓の開閉を行っており、職員の安全、命に関わることから、メンテナンスのためのキャットウォークの設置は必須であると思われます。現在、温室の植物の維持管理費として、年間7百万円弱がかかっています。

③最低限必要な設備修繕

エアコンや消防設備、庇、トイレ浄化槽など、建物として最低限の設備の更新に少なくとも43百万円がかかります。ただしこれは今分かっている範囲での、少なくともの金額であり、今後配管や電気系統も更新時期を迎えることが予想されます。

エ) 入園者の属性について

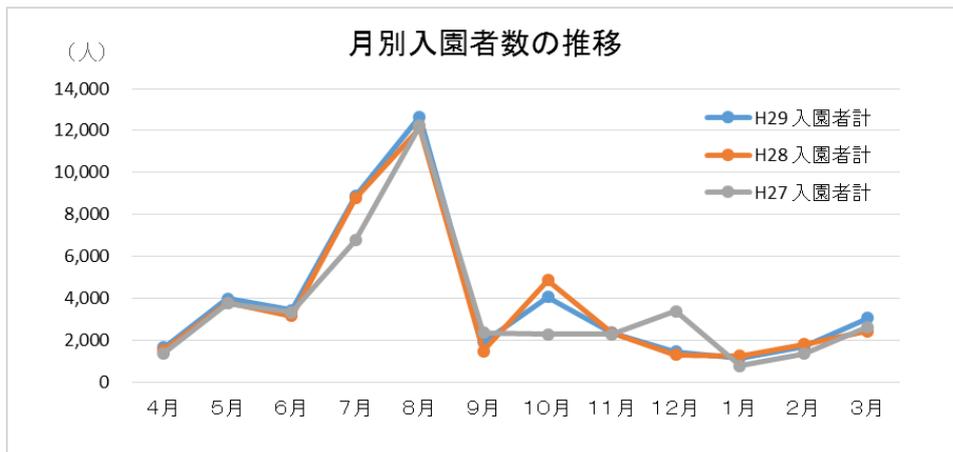
平成29年度の入園者数は46,294人。うち68%にあたる24,706人が一般、16%の5,735人が小中学生、16%が幼児となっています。平成25年度の属性と比較すると、一般の割合が下がり、幼児の割合が増えています。これは平成27年度から開始した小学校低学年、乳幼児をメインターゲットとしたイベント「木育キャラバン」の影響が大きく、他にも「夏の親子ふれあいまつり」や、「ひみ花とみどりのフェスタ」といった子育て世代向けイベントにより、来園者数が増加傾向にある状況です。



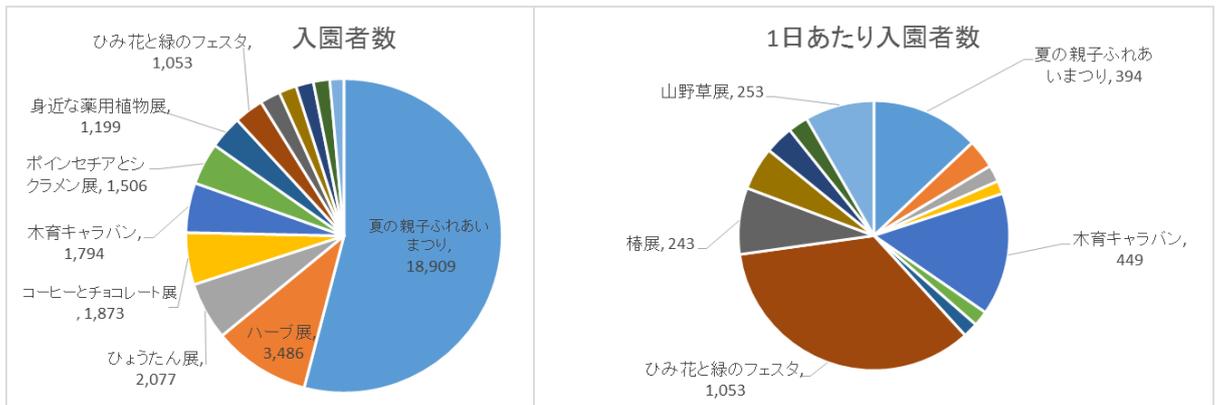
オ) イベント時における入園者数について

平成 29 年度は、年間を通じて 13 のイベント、企画展が行われており、有料期間と無料期間とが混在しています。これを分析すると、有料、無料いずれにせよ、何らかのイベントを行っている時は、1 日あたり平均 151 人が来園しており、何もしていない時の平均 45 人と比べ、入園者数が約 3 倍に増える傾向があることが分かりました。

入園者数が最も多いイベントは「夏の親子ふれあいまつり」で 20,592 人が訪れており、年間の約半分の入園者が 7 月、8 月の約 2 ヶ月間に集中していることとなります。5 月に増加しているのは「ひみ花とみどりのフェスタ」、10 月（平成 27 年度は 12 月）に増加しているのは「木育キャラバン」の影響によるものです。



また、イベント別に 1 日あたり来園者数が多いイベントは、ひみ花とみどりのフェスタ (1,053 人)、木育キャラバン (449 人)、夏の親子ふれあいまつり (394 人) であり、子育て世代向けイベントの集客力が強いことが分かります。また無料期間ではあるが、高齢世代向けの山野草展、椿展も 1 日あたり 250 人前後が来ています。



なお、平成 29 年度の木育キャラバンにおいて来園者アンケートを行ったところ、植物園に期待する企画展としては、21%が木のおもちゃの展示、18%が木工体験、11%が昆虫の展示、11%がマリンスポーツなどのアクティビティ体験等が支持を受けており、次に多かったのが四季折々の花の展示で 8%となっています。その後に生き物の展示が 7%と続き、珍しい海外の植物展示が 6%、食べられる植物の展示が 6%、氷見の身近な植物展示は 2%、マングローブの展示は 2%と、市内外の子育て世代からは植物展示の支持が弱いことが分かっています。

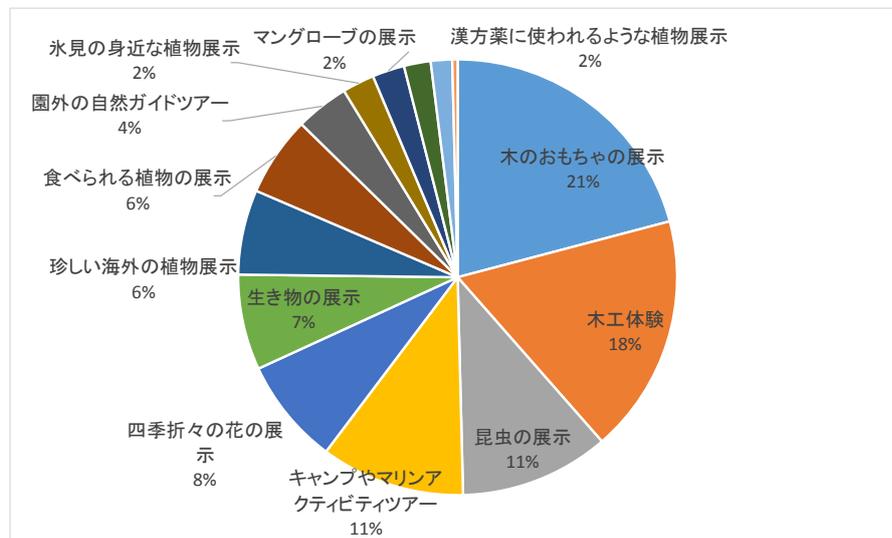
H29 木育キャラバンにおける来場者アンケート

Q. 海浜植物園に、どんな企画を期待しますか？(3つ選んでください)

・珍しい海外の植物展示	・氷見の身近な植物展示	・漢方薬に使われるような植物展示	
・四季折々の花の展示	・食べられる植物の展示	・マングローブの展示	・昆虫の展示
・生き物の展示	・木のおもちゃの展示	・園内の植物ガイドツアー	・園外の自然ガイドツアー
・キャンプやマリリアクティビティツアー	・木工体験	・その他()	

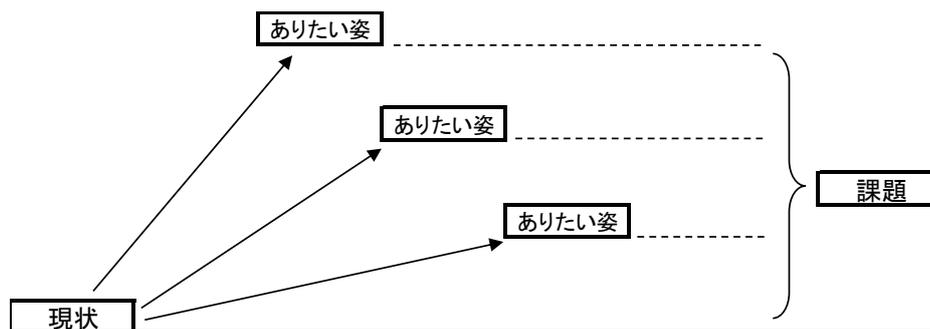
【回答】(N=254)

	合計	割合
木のおもちゃの展示	53	21%
木工体験	45	18%
昆虫の展示	28	11%
キャンプやマリリアクティビティツアー	27	11%
四季折々の花の展示	20	8%
生き物の展示	18	7%
珍しい海外の植物展示	16	6%
食べられる植物の展示	15	6%
園外の自然ガイドツアー	10	4%
氷見の身近な植物展示	6	2%
マングローブの展示	6	2%
漢方薬に使われるような植物展示	5	2%
園内の植物ガイドツアー	4	2%
その他(音楽関係)	1	0%
合計	254	100%



(2) 課題

現状と、ありたい姿との「差」が課題だと考えると、「ありたい姿が定まらないため課題が明確に定まらない」ということが、最も大きな課題です。本施設に対して、市としてどんな役割を、どんな水準で期待するのかを明確にすることが必要となります。



また、ありたい姿に近づくために投入できる経営資源が減っていることも大きな課題だといえます。

(ヒト)

海浜植物園の指定管理を行っている一般財団法人氷見市花と緑のまちづくり協会は、開園から一環して施設の管理運営に携わっていますが、正規職員が1名のみでの体制でマンパワー不足となっている他、スタッフの高齢化が進み、担い手が不足しています。マンパワーを補うために生産性を上げたいものの、全体マネジメントを行う人材が不足しているため難しい現状があります。

(モノ)

施設については老朽化が進んでおり、展示については鮮度が落ちています。施設の生命線としての入園者数の維持、増加が現場の意識にあるため、変化の少ない植物展示から、体験やイベントといったソフト事業に重点を置こうとするものの、ここで再びマンパワー不足の問題に陥ってしまいます。

(カネ)

人口減少が進む中、行政改革で指定管理料は年々削減されています。本施設に、市としてどんな役割を、どんな水準で求めるのか、またその実現のためにどれだけ投資できるのかを見直すことが重要となります。

人口減少は今後も進むことが確実であり、にも関わらず入園者数の増加を追い求め、一方で経営資源が減っていく今の体制には無理があり、持続可能なものではありません。これには、行政の担当職員が数年で異動となる体制にも問題があり、「現状維持」「禍根を残すことなく、とりあえず今のまま」を求めてしまいがちな考え方が、抜本的な改善策を打ち出せずにいる一因になっているものと考えられます。将来世代の負担を減らすために、一刻も早く、時代にあった本施設の「あり方」を定め、今後の人口減少を見据えたハード、ソフト両面からの体制の見直しを図っていくことが求められています。

4. 有識者検討委員会及び庁内検討委員会における意見について

本施設が進むべき方向性について、現状と課題や氷見市海浜植物園に関連する氷見市の上位計画（資料編参照）をふまえ、氷見市役所庁内および有識者による検討を行いました。市として、また市よりも広い視点から見た本施設に期待する役割について、以下のような意見（概要）が委員から出ました。

（庁内検討委員会における意見）

- 地方創生の観点から、民間による起業など、雇用創出や就業促進につながる場となることが望ましい。子どもが安心して学び、遊ぶことができる環境の整備を。
- 市民の憩いの場、公園のような場ではないか。子育て世代等の若い世代が、雨天時でも遊べるような場になることが望ましい。
- 木育の拠点というのは、市としてやる方向に決めたので、そういう方向性は行政として持ちつつ、植物園を維持していくという考え方は捨てていいのではないか。癒しの空間であったり、市民が憩える場となればよい。既存の植物を活かしつつ、公園のような場となることが望ましい。
- 緑花の拠点施設としては、研究も大事だが、市民に花の普及とか、外へ出て行くことも必要ではないか。子育て支援につながる施設であってほしいと考える。
- 緑花の拠点は必要だと思うが、設備はなくても人が大事だと思うので、そのための集う場所として存在する形でよいのではないか。
- 憩いの場、公園といった形で、市民に利用してもらえるような施設になればよい。

（有識者検討委員会における意見）

- 20年後、30年後、みんなが、この施設あってよかったね、となるのがありがたい姿だと思うので、そのような視点で。個人的には「環境」というキーワードは大事だと思う。
- 海浜植物にこだわった、全国でここしかない特徴を表に出す。それをベースにもう一度しっかりおさえて、プラス木育など若い世代向けの要素を加えてはどうか。その二つのことを上手に融合できればいい。例えば、海岸に自生する海浜植物にスポットを当てる意味で、散策園などアウトドアをもっと活用してはどうか。今の木育の延長として、外で森のようちえんを開催するのもいい。

- 木も植物。植物をベースにした上での木育。「海浜植物」にこだわった方向性を持つべきだが、何か目玉になるものがないと、外からは分かりにくいのではないか。植物園の社会的役割としては「生物多様性の保全」が求められている。例えば氷見でやるべき植物の保全として、菊や桜など具体的なものもある。
- こんなに自然豊かな環境で子育てができる可能性のある氷見市なので、ここを有効に、園児のために使ったらいいのではないか。保育園だったらいいな、と思った。市民のための教育、福祉、健康を担う場所ではないか。私達は「自然」に惹き付けられる。ここなら松田江浜。何を魅力として、この氷見にしかない、というものをアピールするかが重要。雨晴から番屋へ、この海岸ルートはよく通るが、小さな子どもはひみ番屋街に行っても遊べない。ここだったら子ども達が思いっきり遊べる場になるのではないかと感じた。
- 当初は散策園に生存している植物を維持、保護していくという考え方で、屋外にかなりの投資をしていたが、非常に厳しい自然環境にあり、常時同じ状態で維持していくことは困難である。そこで観光で入園者数の維持を、という話が開園から3年頃にあった。県外から来るお客さんにとっては、植物園も一つの観光ルートに入っていたと思う。氷見には歴史や文化、教育施設など、見るところがあまりない。植物園というものがしっかりあって、それを支えていく上での木育であったり、各種イベントがあって利用者を増やしていくということではないか。自然に近い海浜のものを維持管理するのは大変難しい。ある程度は自然に任せないといけないのではないか。
- 目玉となる植物を展示してはどうか。若い人達にお見せするとしたら、熱帯果樹がどういう状態になっているのかを伝える事も一つの情操教育ではないか。色んな色合いのものや、趣味多彩な植物展示をしてはどうか。
- 全国的な財政問題がある中で、外部から人を呼び込んで収入が得られる施設とするべき。8割のよそ者を惹きつける、何度も来たくなる施設にする一方、2割の市民は恩恵を受ける形にしてはどうか。植物と「子ども」がもっと仲良く、親和性をとることが、氷見の生きる道ではないか。植物学と林学、森林学に親和性が生まれる場に、海と山の連携が見られるような場にしてほしい。「木一本、ブリ千本」というような言葉が体現できるようなことを、この植物園でできればいい。ポイントは、海浜植物と、日本一美しい氷見杉を、どうつぎ合わせていくかだろう。日本一美しい氷見杉で、赤ちゃん木育ひろばみたいなものを作って、赤ちゃんもくればお年寄りも来るような多世代交流の場になれば成功すると思う。
- 最大公約数的に理解が得られそうなのは「緑花の拠点」だが、具体的にどんな場所なのか。やはりそこに集う人材が大事なのでは。人と人との関係性を

生み出すような施設を目指すべきではないか。

- 地域の方々にリピートしてもらえそうな形にすることが大事ではないか。市内の小中学校の教育の延長線上として使っていただくような使い方がもう少しあってもいいのではないかと思う。

以上の「あり方」に関する意見について、以下のようにキーワード毎に分類しました。

<p>海浜植物 植物園 海と山</p>	<p>海浜植物園にこだわった、全国でここしかない特徴を表に出す。</p>
	<p>木も植物。植物をベースにした上での木育。「海浜植物」にこだわった方向性を持つべきだが、何か目玉になるものがないと、外からは分かりにくいのではないか。</p>
	<p>植物園というものがしっかりあって、それを支えていく上での木育であったり、各種イベントがあって利用者を増やしていくということではないか。</p>
	<p>植物学と林学、森林学に親和性が生まれる場に。海と山の連携を。「木一本ブリ干本」というような言葉が体现できるようなことを、この植物園で出来ればいい。</p>
<p>子育て 教育</p>	<p>子どもが安心して学び、遊ぶことができる環境の整備を。</p>
	<p>子育て世代等の若い世代が、雨天時でも遊べるような場になることが望ましい。</p>
	<p>子育て支援につながる施設であってほしいと考える。</p>
	<p>自然豊かな環境で子育てができる可能性のある氷見市なので、ここを有効に、園児のために使ったらいいのではないか。保育園だったらいいな、と思った。</p>
	<p>市内の小中学校の教育の延長線上として使っていただくような使い方がもう少しあってもいいのではないかと思う。</p>
<p>人と人との交流を 生み出す場</p>	<p>市民の憩いの場、公園のような場ではないか。</p>
	<p>癒しの空間であったり、市民が憩える場となればよい。既存の植物を活かしつつ、公園のような場となることが望ましい。</p>
	<p>憩いの場、公園といった形で、市民に利用してもらえるような施設になればよい。</p>
	<p>そこに集う人材が大事なのは。人と人との関係性を生み出すような施設を目指すべきではないか。</p>
	<p>地域の方々にリピートしてもらえそうな形にすることが大事ではないか。</p>

木育	木育の拠点
	プラス木育など若い世代向けの要素を加えてはどうか。その二つのことを上手に融合できればいい。
	ポイントは、海浜植物と、日本一美しい氷見杉を、どうつぎ合わせていくかだろう。日本一美しい氷見杉で、赤ちゃん木育ひろばみたいなものを作って、赤ちゃんもくればお年寄りも来るような多世代交流の場になれば成功すると思う。
緑花の拠点	緑花の拠点施設としては、研究も大事だが、市民に花の普及とか、外へ出て行くことも必要ではないか。
	緑花の拠点は必要だと思うが、設備はなくても人が大事だと思うので、そのための集う場所として存在する形でよいのではないか。
	最大公約数的に理解が得られそうなのは「緑花の拠点」だが、具体的にどんな場所なのか。
地方創生など社会的ミッション	地方創生の観点から、民間による起業など、雇用創出や就業促進につながる場となることが望ましい。
	20年後、30年後、みんなが、この施設あってよかったね、となるのがありがたい姿だと思うので、そのような視点で。個人的には「環境」というキーワードは大事だと思う。
	植物園の社会的役割としては「生物多様性の保全」が求められている。例えば氷見でやるべき植物の保全として、菊や桜など具体的なものもある。

5. 進むべき方向性について

分類した各キーワードについて、以下、どのようなニュアンスで使われていたのかを踏まえた上で、市として進むべき方向性を検討します。

(1) 海浜植物・植物園・海と山

「海浜植物」という言葉自体が氷見という地域特性を表し、海、植物（自然）を内包しています。また、この名称を冠する植物園が全国唯一ということもあり、本施設のもつ「個性」「特色」「専門性」を表すキーワードとなります。

なお、植物については屋内展示以上に、散策園の海浜植物を植栽したエリアが重要であり、屋外をもっと活用すべきとの意見がありました。

また、氷見ならではの自然環境は「海と山」であり、従来本施設で取り扱ってきた「(海浜)植物学」に「林学、森林学」を加えることで「木一本、ブリ千本」という言葉が体現できるようなあり方を提案する意見もありました。

【キーワード分類：個性、特色、専門性】

(2) 子育て・教育

子どもが安心して学び、遊ぶことができる環境の整備や、子育て世代等の若い世代が雨天時でも遊べるような場、子育て支援につながる場を求める意見のほか、市内の小中学校の教育の延長線上として使っていただくような使い方の提案など、子育てや教育に関する意見がありました。

また、本施設のベースには「氷見の自然を活かした」という考え方が共通しており、「氷見の自然×子どもからお年寄りまでが集まる場」というあり方が、これらの意見から浮かび上がるものと推測されます。

【キーワード分類：実現したい姿、価値】

(3) 人と人との交流を生み出す場

子育て支援と並んで多かったのが「人と人との交流を生み出す場」というキーワードでした。市民の憩いの場や公園といったイメージに近いという意見の他、そこに集まる「人材」が重要との意見がありました。

なお、今回は「あり方」に関する検討を行うものとしていましたが、経営改善や管理運営体制に関する意見、また「友の会」や「ボランティア制度」の導入といった、運営体制であり、かつあり方でもあるような意見がありました。

【キーワード分類：実現したい姿、価値】

(4) 木育

前述のように、「人と自然」、また「子どもからお年寄りまで」をつなぐ役割として、そして「木一本ブリ千本」という氷見ならではの自然環境を体現するヒントとして「木育」を取り入れたあり方に関する意見がありました。

とはいえ、あくまで「(海浜)植物をベースにした上での木育ではないか」という意見もあります。「木育」は本施設のあり方を体現する上で重要なキーワード間を「つなぐ」要素となります。

【キーワード分類：手法、手段】

(5) 緑花の拠点

「緑花の拠点」についても、本来「人と人」「人と自然」をつなぐ役割が期待されていた言葉だと考えられますが、具体的にどんな場所なのか、イメージがつかみづらい言葉だという意見がありました。市の施策として緑花は必要だが、設備（植物展示などのハード）以上に、外に出ての園芸講座など、緑花にむけた普及啓発活動が重要であり、施設としては緑花に関心を持つ人が集う機能があればよいとの意見がありました。

【キーワード分類：手法、手段】

(6) 地方創生など社会的ミッション

地方創生の観点から「雇用創出や就業促進につながる場」、あるいはより広く社会的な役割として「環境」や「生物多様性保全の拠点」という意見がありました。数としては少数意見ではあったものの、本施設のあり方によって、波及していく事が期待される効果であると推測されます。

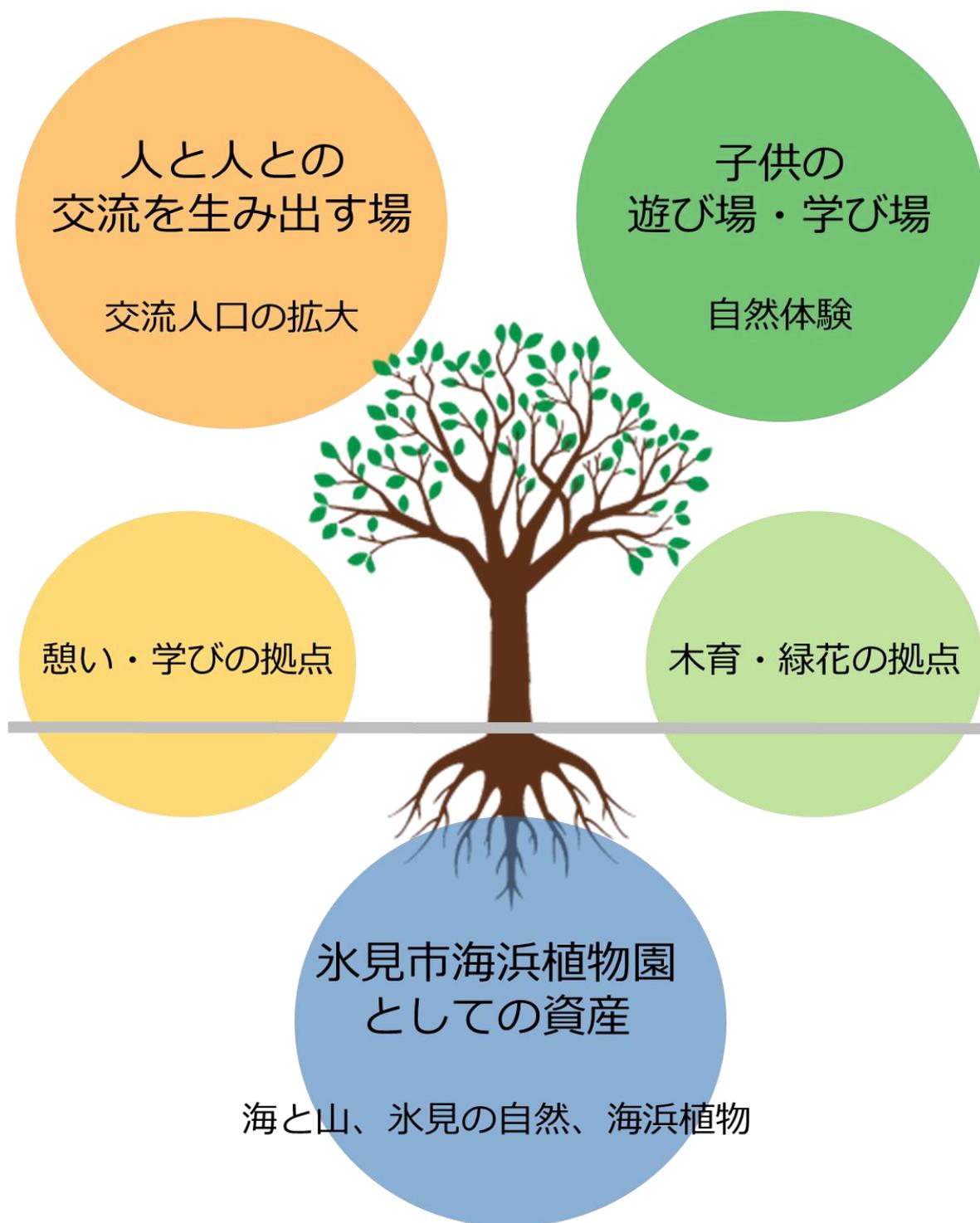
【キーワード分類：期待される波及効果】

以上の分類を踏まえ、市として考える進むべき方向性は、以下のとおりです。

これまでに本施設が培ってきた「海浜植物」という専門性は一つの資産であり、他施設との差別化を図る上でも重要となります。この資産をベースにしつつ、従来の緑花に加え、木育を柱とした「子供の遊び場や学び場」を創出することが、本施設において実現したい姿です。また、子どもだけでなく、大人も含めた「憩い」「学び」の機会を提供することにより「人と人との交流を生み出す場」「交流人口の拡大」につながることを目指してまいります。

6. あり方に関する基本方針

今後、氷見市海浜植物園は、以下の姿を目指してまいります。



7. リニューアルに向けた今後の進め方

今回、氷見市海浜植物園の「あり方」についての基本方針が定められましたが、今後は2021年4月のリニューアルオープンを目指し、経営改善に向けた運営体制の見直しを進めてまいります。

また、運営体制の見直しと合わせ、外部から人を呼び込むことで収入を得られる施設となるよう、入園料設定を含めた集客のあり方や施設名称、ハード面におけるゾーニングについても今後引き続き検討を行い、本施設がこれまで以上に効率的な施設運営、そして明確なコンセプトのもと、氷見市の地方創生に向けた持続的な効果を発揮する場となることを目指してまいります。

8. 資料編

(1) 氷見市海浜植物園のあり方に関する基本方針策定の経緯

第1回 庁内 検討委員会	日時：平成30年6月27日（水）15:00～17:00 場所：氷見市役所2階 201会議室 内容：・基本方針策定の概要について、 基本方針（素案）について、意見交換
第1回 有識者 検討委員会	日時：平成30年7月11日（水）10:00～12:00 場所：氷見市海浜植物園 2階ワークショップ 内容：・基本方針策定の概要について、 基本方針（素案）について、意見交換
第2回 庁内 検討委員会	日時：平成30年9月27日（木）10:00～12:00 場所：氷見市役所2階 201会議室 内容：・基本方針（素案）について
第3回 庁内 検討委員会	日時：平成30年10月16日（火）11:00～12:00 場所：氷見市役所2階 センター 内容：・市としての財政支出に関する検討、今後の進め方
第2回 有識者 検討委員会	日時：平成30年10月31日（水）10:00～12:00 場所：氷見市役所2階 201会議室 内容：・基本方針（素案）について
第4回 庁内 検討委員会	日時：平成30年11月19日（月） 場所：氷見市役所2階 センター 内容：・基本方針（素案）について
第5回 庁内 検討委員会	日時：平成31年1月28日（月） 場所：氷見市役所2階 センター 内容：・基本方針（最終案）について
パブリック コメント	実施期間：平成31年2月21日（木）～3月14日（木） 募集方法：氷見市ホームページにて募集 募集結果：0件
答申	日時：平成31年3月22日（金） 場所：市長応接室 内容：・市長への基本方針答申

(2) 氷見市海浜植物園のあり方に関する基本方針策定検討委員会設置要綱

氷見市海浜植物園のあり方に関する基本方針策定検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、氷見市海浜植物園のあり方について協議を行い、氷見市海浜植物園のあり方に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を策定するため、氷見市海浜植物園のあり方に関する基本方針策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は基本方針策定に向けて必要な事項の検討を行い、市長に対し報告することとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員7人以内とする。

2 委員は、次に掲げる者について、市長が委嘱する。

- (1) 関係諸団体の役職員
- (2) 学識経験を有するもの
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から平成30年12月31日までとする。

(座長等)

第5条 委員会に座長及び副座長各1名を置き、委員の互選によって定める。

- 2 座長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、座長が召集し、座長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、座長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、建設部花みどり推進室において処理する。

(細則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、座長が委員会に諮って定める。

付則

この要綱は、平成30年6月8日から施行する。

(3) 氷見市海浜植物園のあり方に関する基本方針策定検討委員名簿

ア) 有識者

No	所属	役職	氏名
1	氷見市	副市長	小野 裕一郎
2	(一財) 氷見市花と緑のまちづくり協会	理事長	本田 恭子
3	みなもと造園株式会社	取締役営業部長	禅野 義広
4	富山県中央植物園	園長	中田 政司
5	(公財) 富山YMCA	総主事	松田 誠一
6	NPO 法人芸術と遊び創造協会	理事長	多田 千尋
7	富山大学芸術文化学部	准教授	有田 行男

イ) 庁内検討委員

No	所属	役職	氏名
1	企画政策部	部長	藤澤 一興
2	企画政策部	参事	京田 武彦
3	総務部	部長	高橋 正明
4	市民部	部長	草山 利彦
5	産業振興部	部長	山口 優
6	建設部	部長	大野 一也
7	教育委員会事務局	次長	荒井 市郎

ウ) 事務局

No	所属	役職	氏名
1	建設部 花みどり推進室	室長	鈴木 瑞麿
2	建設部 花みどり推進室	主査	古谷 忠久
3	建設部 花みどり推進室	主任	伊東 翼
4	建設部 花みどり推進室	主事	前田 綾乃

(4) 氷見市海浜植物園に関連する氷見市の上位計画について

ア) 第8次氷見市総合計画（後期計画）

策定時期：平成30年3月

計画期間：平成30年～33年度 4年間

概要：

平成24年3月に目指す都市像を「人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ」と定め、「第8次氷見市総合計画」を策定。その基本計画として、前期に続く後期基本計画。暮らしづくり、人づくり、元気づくり、持続可能な自治体経営の確立という4つの基本目標と、それに対する政策、重点プロジェクトを定めたもの。

関連箇所：

第1章 暮らしづくり

第4節 自然と調和した生活空間の創造

(4) 花いっぱいのまちづくりの推進

緑花の拠点である海浜植物園について、時代にあった施設のあり方の検討を行うことが定められている。

イ) 氷見市公共施設再編計画

策定時期：平成30年3月

計画期間：平成30～39年度 10年間

概要：

一般会計にて管理する施設（建物）135施設を対象に、施設の方向性を6つ（①更新、②維持・長寿命化、③集約化、④民営化・ソフト化、⑤あり方の再検討、⑥機能の見直し）に分類し、施設ごとに具体的な内容を示すもの。

関連箇所：

本施設は「観光施設」として、維持・長寿命化対象施設と位置づけられている。

- 利用者増のための施設の新たな活用方法や、利便性の向上に繋がる新たな取組みの検討を行い、より有用な施設となるよう努める。
- 本市の観光戦略における各施設の役割を定めるなどし、それぞれの施設の運営方針を明確にした上で、利用者の増加や満足度の向上に努める。
- 観光施設は民間参入の可能性が他の分野に比べ大きいことから、それぞれの施設について行政が運営する必要性やその効果などを検証し、施設に対する行政の最適な関与の方法について再検討する。
- 行政の関与が不可欠と判断された施設についても、民間のノウハウや経営手法を積極的に導入し、経営の効率化や利用率の向上に努める。